

# EPSブロック工法

EPSブロック工法(EPS:Expanded Poly-Styrol)は、発泡スチロール製の大型ブロックを土木材料として用いる工法です。EPSブロックの超軽量性、耐圧縮性、自立性を活かして、軽量盛土材として利用します。

## 特長

EPSブロックの密度は $0.01 \sim 0.04 \text{ g/cm}^3$ 程度で、通常の盛土材に比べて極めて軽量です。

EPSブロックの圧縮強さは密度によって異なりますが、一般的に $50 \sim 300 \text{ kN/m}^2$ 程度であり、盛土材としての適用が十分可能です。

EPSブロックは、その上に荷重が作用した場合でも側方への変形は極めて小さいため、構造物に作用する土圧を大幅に軽減することができます。

EPSブロックは超軽量であるため、人力での運搬・設置等が可能です。

## 施工手順



1.EPSブロックの積み上げ



2.EPSブロックの上への床版  
コンクリートの打設



3.路盤工を行い、盛土の完成

## 施工実績

工事名	工期	施工場所	発注者	目的	施工数量
新筑川橋梁整備工事	90.7～90.11	宮城県	宮城県	盛土部の沈下防止	1,580m <sup>3</sup>
青森港沖館岸壁改良工事	91.3～91.7	青森県	青森県	岸壁背面の土圧低減	3,430m <sup>3</sup>
東京空港場周道路工事	96.2～96.12	東京都	運輸省	護岸背面の土圧低減	2,880m <sup>3</sup>
汐見運河クローバ橋下部工建設工事	96.6～97.6	東京都	住宅・都市整備公団	土圧低減	130m <sup>3</sup>